

うしく里山の会 広報誌

# さとやま

No. 76

2009年6月号

## NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1  
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u\_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



### 夏にはホタルが飛び、秋には収穫と楽しみ満載の田んぼ

牛久市立向台小学校5年生たちと(写真提供:向台小)

## 『いのち』をつなぐ『ヘイケボタル』

自然観察出前講座 石神 良三

向台小学校の五年生が、総合学習の一環として取り組んでいる「ヘイケボタル」の保全活動が三年目の今年もスタートした。

四月二十九日にホタルの生態や生息環境について学習し、五月十一日に田植えを実施した。なぜ田植えなのかというと、「ヘイケボタル」の幼虫は谷津田と呼ばれる田んぼやその周辺の水辺などの環境に生息するタニシやモノアラガイなどの巻貝を餌として命をつないでいるからだ。

巻貝が生息出来る環境としては、先ず「きれいな水」が条件だ。田んぼに隣接する台地の斜面林からの湧き水が流れ込んでいる様子を観察したことで子供達も納得出来たようだ。

田植えをしながら、アメ

ンボウ、シユレーゲルアオガエル、ドジョウ、ザリガニ、タニシ、モノアラガイなどの生きものに出会えた事も、今後継続される保全活動を支える大きな力になるだろう。

私たち出前講座のメンバーも、子供達と夢を共有しながらの楽しい支援活動を進めたいと思う。



写真提供:向台小







うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

# プロジェクト活動報告

街路樹

チーム街路樹20受託事業報告

増田 勝彦

「松戸市常盤平」

第二回・研修見学会に参加して

五月十日（日）、松戸市常盤平の研修見学会を実施しました。常盤平駅は常磐線松戸駅で新京成線にのりかえて九分、駅前の中心は公団住宅で、周りを一戸建ての住宅が立ち並ぶ古い住宅地です。一九八六年に（旧）建設省により、市内のさくら通りが「日本の道一〇〇選」に選ばれています。

チーム街路樹20は、すぐれた景観を持つ市外の街路見学会を、今年は七回実施します。これは、樹名板を付けたり、広報つしくに「わが街の木」の樹木紹介記事を掲載して市民に対する樹木情報を提供をする一方、所属メンバーの知識吸収と親睦も兼ねて行うものです。四月は、高尾の甲州街道沿いのイチヨウとケヤキ並木を見ってきました。六月は「日本の道一〇〇選」に選ばれている東大通りと、筑波大学のキャンパスを中心とした街路、七月はヤナギの並木で有名な東京銀座界隈と、見学地は新旧街路を織りまぜています。この企画役として街路探検チームを編成、事前に下見に出かけました。常盤平の下見は四月初旬でしたが、丁度サクラの満開時とぶつかり、本番よりも素晴らしい景観で、汗かき役の探検チームへの自然からのご褒美かなと思ったりしました。見学行程は担当のSさんが、往路ドライブ・常盤平ウォーキング・帰路ドライブの三つのコースに区分、車三台に分乗して同市内の、「二十一世紀の森と広場」の有料駐車場に車を停めてスタートしました。京成線を渡りしばらく行くと、左角に松坂屋ストアのある信号に出ますが、この左右が有名なケヤキ通りです。ここから常盤平駅までは至近距離です



けやき通りを歩く 09.05.10 増田

が、駅に急ぐ人、買物に行く人で、朝十時過ぎの街路は常盤平駅を中心に始まっているようで、活気に溢れています。読売新聞社の「新・日本街路樹百景」の一つで、剪定は植栽来一切なしで、まるで緑のトンネル。下見の時は落葉後の幹と枝が目立っていましたが、この日は新緑の葉っぱの隙間から、木漏れ日が陽炎のように地面をゆらゆらと揺らしています。松戸市は人口約三〇万人で、なんでも「すぐやる課」で有名になりましたが、緑化に対する長年の取組努力を改めて感じさせられました。常盤平駅を右折すると、「さくら通り」と続きます。ここは、テラス感覚のショップが立ち並び、さながら東京の三原宿・表参道を想起させます。

午後四時過ぎに市役所に戻り、研修見学会を無事終了しました。





## アヤマメ受託事業報告

佐藤 輝雄

## アヤマメ園の近況

アヤマメ園は二月から作業を開始した。今年は昨年ほど寒さは厳しくなく、畝の土もさほど凍らないため、除草は比較的楽に進められた。

水運の間引きとともに二月・三月の作業を進める。四月に入って、桜の便りが聞こえるようになる。この辺で昨年株分けし移植した株が、あまり育っていないのが気になりだした。場所によって育ち方に違いが生じている。要因としては昨年十月半ばごろまで株分けが続いたことが考えられる。本来は九月末位までに完了しなければならぬが、今回全体の八割を株分けしたため労力的に間に合わず、遅れが生じてしまった。そのために十月ごろに株分けした株は新しい根が張れなかつたようである。余った株の元気そうなところを寄せ集め再度移植を進めた。

今年の桜は例年より早く、四月八日ごろ三日月橋の桜も満開になり、アヤマメ園の作業環境としては最高の気分である。桜の満開が早いということはアヤマメ園の雑草の伸びも早くなってくる。桜見物の客がアヤマメ園を散策し、作業中の私たちにねぎらいの声をかけてくれる。作業をしている私たちはその一声がうれしい。

五月に入り、昨年一か所に集めたあやめが咲き始めた。あやめの紫の花が可憐に咲きそろったのは、私たちの心へのなごみである。

雑草は一段と伸び、いよいよ雑草と私たちの競争が始まった。今年からたくましい男性二人がメンバーに加わり、戦力も増したが雑草に追われ気味である。うららかなある日、突然「ワッ!」。瞬間「ミニミズ」が空を飛んだ!。「空飛ぶミニミズ」、「ミニミズが

空を飛ぶ」どちらでも構わないがアヤマメ園の珍現象である。それはアヤマメ園で作業する私たちだけが見られる現象である。イラストの中でもミニミズが描かれているが不思議である。

また、昆虫の「ケラ」を見つけると「はい、どうぞ!」と昆虫博士のKさんに差し出す。もうだいたい集まったことと思うが、数多い「ケラ」の合奏を聴ける日が近いかもしれない。

先日は水の張られた畝間にめだかが泳ぎだした。すると、「キヤー」との声。シマヘビが素早く逃げだす。牛ガエルが突然池に飛び込む。昨年はザリガニ二つにらめっこをした人がいたが今年も対面するだろうか。

本当に自然の豊富なアヤマメ園であり楽しい時間でもある。



花菖蒲とカッパ(周辺の生物も活動を始めました)

イラスト 久保田節子



## 里山自然観察隊事業報告

田澤 七郎

## 第一回植物観察会「林地の植物を見る」

三カ年計画で進めている小野川流域の植物観察会、最終年度である今年度第一回目を実施しました。今年度の観察地は小野川下流域。林地としては島田町の雑木林二カ所。

五月九日(土)朝九時、牛久自然観察の森駐車場に集合。参加者は八名で全員観察隊プロジェクトのメンバーでした。

まず、講師の渡辺泰さんから説明を受けました。観察調査は年二回は行うべきで、更にそれを三年、或いはそれ以上続けなければ余り意味がないということなど。その後、車三台に分乗して現地へと出発。

最初の観察地は奥野生涯学習センター近くの雑木林。ここは主としてコナラ、クヌギなどで構成された疎林で、アズマネザサがかなり伸びていたが比較的入り易い観察調査が可能な所でした。日差し、風通し、地形などの環境条件も比較的良好で絶滅が心配されている植物を含めアキノタムラソウ、キンラン、ハイドクソウ、マムシグサなど草本で約三十種、木本で約四十種を観察、確認しました。ここでの所要時間はおよそ一時間半。

次の観察地は数キロ東方の同じ島田町内の雑木林。ここは下草刈りなどの手入れが良くされていて入り易く行動し易い所でした。ここもブナ、コナラ、ヤマザクラなどからなる雑木林で日差しも良くアズマネザサも少なく他の植物にとっては絶好の環境と思われました。ウマノアシガタ、ホウチャクソウ、ドクダミ、ハエドクソウなどが多く、ヤマユリ、ギンラン、ヒトリシズカなども確認でき草本約五十種、木本約三十種の植物を確認しました。ここでの所要時間は約一時間。当日の天気は晴れて風も程良くあり、野外活動には最適のはずでしたが、持参した温

湿度計での藪の中の温度は二十八度、湿度は七十パーセントを越えいささかこれからの夏が思いやられる一日でありました。作業終了時刻は十二時三十分でした。

さてここからは、筆者個人のことです。一言。最初の観察地での作業中、長袖シャツを着ていたにも関わらず、左二の腕の内側が猛烈に痒くなりました。見れば一面に赤い発疹の粒々がびっしり。それから四日経った今も痒みは無くなったものの発疹は残っています。

何が原因であったのか、虫に刺されたのか、ともかくこれからは油断せず注意しながら観察に臨みたいと思います。



09.05.09 白井英雄

**雑木林応援隊事業報告**  
原口 隆男

五月の連休に行われた炭焼き作業に想う

雑木林応援隊の活動の中で年間五回程行われている炭焼きは今ではメイン行事となっている。今回インフルエンザ騒ぎの五月の大型連休のさなか炭焼き

(木炭)作業が行われた。炭焼き作業の際はいつも思うのだが、新緑の周りの景色にマツチして空高く立ち上る煙を見てみると『里山の景観には炭焼きがよく似合う』とつくづく感じる。

炭焼き作業のさなか観察の森を訪れる来園者は炭焼きの様子を見ると必ず立ち止まって話し掛けてくれます。今ではすっかり見られなくなった炭焼きに子供や若い人達は興味津々、又熟年の方々は「懐かしいですね！子供の頃はよく親父に手伝わされた！」とか「山で炭焼き作業をする家族のお弁当を届けさせられた」とか子供の頃の体験談を本心に懐かしそうに語ってくれる。それだけに炭焼きの様子を垣間見るだけで訪れる人それぞれが何故か郷愁を誘われるのでしょう。

私達は五月二日より三日間畑作業や小屋の修理等他の作業をやりながら交代で炭焼き作業をのんびりを行い、久し振りに至福の時を過ごす事が出来た。しかしこんなのんびりとした炭焼き作業の合間にふと思いついた事があった。

年の秋に応援隊の仲間と連れ立って茨城県と福島県の県境にある矢祭町の秘境滝川渓谷にハイキングに行った時の事です。全長三キロの散策路内に滝が四八個も連続してあり見事な紅葉の渓谷美を満喫するかたわら、至る所に石組みで作った炭焼き窯跡が目についた。一人がようやく通れる位の険しい山道に転々としてある窯跡を見るにつけ、険しい山道に転々としてある窯跡を見るにつけ、当時生活の糧に炭を焼かざるを得なかった人々の苦勞が忍ばれ、この曲がりくねった急な坂道をどうやって薪を集め、炭を焼き、炭を担ぎ下ろした

のか、先人の過酷な労働を想像すると胸がつまる思いがした事を覚えている。同じ様な炭焼きでも今は本当に楽で楽しく作業が出来る事の幸せを噛み締めた三日間でもあった。



燃えるかまど 09.05.03 原口隆男



**巨木リサーチ事業報告**  
猪野 年郎

樹を診る

巨木リサーチ事業では、平成十八年度から二十年度の三年間の活動実績を踏まえ、二年間延長しました。平成二十一年度は診断グループ・管理グループ・ガイドグループ・写真グループ・研修グループの五つのグループで活動を進めます。

診断グループは、昨年までに調査を進めてきた巨木七十六本を四月十五日・二十一日・二十八日の三日間、診断との観点から、診てきました。

診断とはどんなことをするだろうかと思われる方もいらっしやるかと思いますが、要するに、樹木の健康の具合を見るわけです。大概の樹木は戸籍があり



ませんので、樹齢（樹木の年齢）はわかりませんが、大きさや姿から推測するのが一般的です。

健康の具合は、目視によって、樹木全体の樹形、葉の量や色・葉の出る（開葉）時期や葉の落ちる（落葉）時期とか落ち方（しっかり葉を落とすか、いつまでも枯れ葉が梢についているかなど）枝枯れはないか、幹の色、幹に損傷部はないか、キノコは付いていないか等を診ます。

また、幹の内部の様子については、写真のような打音診断（幹を木槌などで叩いて、その音を聞き分けて、幹の内部の腐れやウロの状態を推測する。特殊な樹木で精密な診断が必要な場合はレントゲンのような調査も可能ですが、それなりの費用が必要です。）などによって、その樹木の健康状態を診断します。



樹木の診断風景 09.04.28 渡辺

樹木の診断は、一時の断面で診るのではなく、継続的に対象樹木を診て、経年的な変化を記録して行くことも、樹木を診断する上で重要なことです。

総体的には、神社やお寺の境内にあるものが多く、立地の環境は、街路樹などと比べて、広い空間と適当な傾斜地の中にあつて、大方が元気な樹勢を保っていました。原因は、十分な光を得られない立地環境にあるもの、なんらかの影響で、立地の環境に変化が生じたと思われるもの、強度の剪定（剪定としては、あまりにも強度で、樹木の生理的な障害をもたらせたと考えられるもの）によるものも見られました。今年一年時間をかけて、詳細に状況を調査し、現在の健康状態を記録に残しておきたいと思う概況調査でした。



### 親子農業体験講座

前田 直之

#### 活動2回目

昨日まで降っていた雨もすっかり上がり、とても天気の良い日でした。参加者も天気の良さに気分も良くなっている感じでした。

今日の活動、まずは前回植えたジャガイモの芽かきです。勢いの良い芽を一、二本残して取り去りま。植えた種芋が抜けないように、しっかり土を上から押さえて引き抜きます。勢いの良いものを残すといつても、いざ作業を行ってみるとどれを残すべきかで悩んでしまい、なかなか次の株へ移れません。これが一番苦労(?)した点ではないでしょうか。

芽かきした後、土寄せを行い、芽をしっかり守り

ます。ジャガイモの害虫も出てきましたが、お母さんたちは子供たちにその相手を御願いしていました。適材適所というにはちょっと違いますが、しっかり仕事をしていますね。

次に、サトイモの植え付けを行いました。ジャガイモと同様に行い、ヤツガシラ、トウイモ、タケノコイモ、ズルイモの四種類植付けました。皆、ジャガイモのときの作業を覚えていたのでスムーズに進みましたが、天気がほんとに良いために、気温も上がり、子供たちはバテてきているようでした。

サトイモを植え付ける場所は、昨年そばを収穫した場所で、そのときに落ちたソバの実から発芽していました。それはそれで大事に抜き取りました。これも食べられるのです。



親子で励む、じゃがいもの芽かき 09.05.09 前田

しばし休憩。水分と甘いものを取り、栄養補給  
これも大事。

さて、この日急遽、近くの竹林にて竹の子取り  
をする。私自身これまで竹の子取りをし  
たことがなく、子供以上に（内心）興奮してい  
たかもしれせん。竹の子自体は時期が少し過ぎて  
おり、竹の少年位にはなっていて掘るとい  
うか抜く・折る（？）という作業となっていました。  
しかし、収穫量は十分ありました。子供たちは、  
収穫した竹の子で一番長いものを力を合わせて運  
んでいきました。それはとても楽しそうでした。  
その場にあるもので自分なりの楽しみを見つけて  
遊ぶ。大人も見習わないといけないかもしれませ  
んね。



結束町みどりの保全区  
「エコアップ作戦」 齊藤 孝

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

六月は五日（金）と二十一日（日）の実施とな  
ります。活動場所は炭小屋と畑周辺の杉林です。  
元気な森づくりを行います。

活動日時

六月五日（金）午前九時～十一時半

二十一日（日）午後一時～三時半

集合場所 ネイチャーセンター一階倉庫前

（予約不要）（雨天・強風時は中止 会ホー

ムページに情報掲載）

持ち物 長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物

（長袖、長ズボン）

刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に  
限ります。

（問い合わせ先 029-872-6600 担当：石神）



牛久自然観察の森だより

齊藤 孝

ゲンジボタル鑑賞会ボランティア募集

今年も自然観察の森園内でゲンジボタルが舞う  
季節となりました。今年は三日間、解説ボランテ  
ィアを募集いたします。各日の鑑賞会開催時間及び  
ボランティア活動時間は次の通りです。

六月六日（土）・十三日（土）・二十日（土）

午後七時三十分～八時三十分

（雨天中止/ボランティア集合午後六時三十分

解散午後九時）

研修会日時

六月六日（土）午後三時～四時

（ネイチャーセンターにて/雨天決行）

ボランティアは三日間のうち一日でも結構です。

主にホタル観賞ポイントでの解説となります。

ボランティア申込方法

六月五日（金）までに牛久自然観察の森

（担当齊藤）まで電話にてお申し込み下さい。

なお、六日の研修会・ボランティア活動両方

に参加される方は夕食等ご持参下さい。

（問い合わせ先）029-874-6600 担当：齊藤



理事会からのお知らせ

坂 弘毅

去る五月十七日に行われました第五回通常総会  
は、予定していた議案を全て全会一致で承認され  
ましたことをご報告申し上げます。

第一号議案

・平成二〇年度事業報告

・平成二〇年度決算報告ならびに監査報告

第二号議案

・平成二十一年度事業計画

・平成二十一年度収支予算について

第三号議案

・平成二十一年度役員改選について

以上、詳しくは議案書をご参照ください。

第五回通常総会終了後に行われました臨時理事

会の決定事項をご報告いたします。

・平成二十一年度役員担当決定の件

代表理事 坂 弘毅

副代表理事 阿部 幸浩

副代表理事 齊藤 孝

理事 渡辺 泰

理事 石神 良三

理事 佐藤 輝雄

監事 増田 勝彦

監事 小林 久

以上





南部の自然を守る会  
阿部 幸浩

「田んぼの生き物調査」を実施します！

農業用水路や田んぼなどは、私たちの主食であるお米の生産の場であると同時に、魚やカエルなど多くの生きものたちの生息場所にもなっています。この田んぼやそのまわりにみられる豊かな生態系は、田んぼで米づくりが営まれることによって成り立っています。



（社）農村環境整備センター  
「田んぼの生きもの調査こどもマニュアル」より

二〇〇一年から環境省と農林水産省が連携して、「田んぼの生きもの調査」を実施しています。本会が構成員として参加している「南部の自然を守る会」でも、左記のとおり実施しますので会員のみなさま是非ご参加ください（申込み不要）。

日時 六月十九日（金）九時～十五時

（小雨決行、雨天延期・変更日は会ホームページで連絡します）

集合場所 成井公会堂（牛久市城中町）九時  
調査内容 生き物調査（魚・カエル・水生昆虫など生息状況調査）

環境調査（水温や水質など生き物の生息環境調査）  
持ち物 お弁当、長靴、汚れてもよい服装でお越しください。

とびっこす

広く宣伝されるアヤメ園

横山さえ子

三ヶ月毎に発行されるJR東日本の情報誌「小さな旅」の花色花紀行の号に、アヤメ園が紹介されています。偉人が愛したふるさと花回廊として、シャトーと神谷伝兵衛、下館と板谷波山などと並んで、小川芋銭と牛久沼とあり、名所として名高い広大なアヤメ園としてののっています。牛久駅から三日月橋生涯学習センターまでカッパ号があり交通の便もよく、歩いても三十分ほどでウォーキングコースとしても良いところですよ。見学者が多ぜい訪れることが予想されます。アヤメ園の管理をまかされている私たちもうれしく、作業にも熱がはいります。惜しむらくは、その他に何も



JRパンフレットから

アヤメ咲く牛久沼を愛した自然派の画家

■小川芋銭と牛久沼

小川芋銭は生涯のほとんどを牛久で過ごした画家であり、信人でもある人物。農村風景などの水墨画を描き、郷土の伝説であるカッパなどを好んで描いていました。芋銭が愛していた牛久沼を見送せる高台には、晩年を過ごしたアトリエでもある鯉魚亭があり、側にはカッパの橋があります。また、牛久沼畔には名所として名高い広大な「アヤメ園」があり、5月下旬から6月の初めまで約1万本ものアヤメが一箇所に咲く様子は必見です。

- 【営業時間】
- 常設展 牛久駅から徒歩約30分
- 9:00～17:00(5月～10月)
- 9:00～16:00(11月～4月)
- （土日祝日も入館可、入館は各観覧室のみ）
- 月曜（祝日の場合は翌日）
- 休館日(12/29～1/4)
- 無料
- 029-871-2301(牛久市役所生涯学習課)

今月の古木・希少木  
No.26  
モジバスズカケノキ

スズカケノキ科の落葉高木。スズカケノキとアメリカカスズカケノキの自然交雑種で、これら三種を総称して、プラタナスと呼んでいます。成長が早く排気ガスなどに強いので、世界で広く街路樹や公園樹として用いられています。日本には明治末期に移入され、現在見かけるものはたいてい本種です。大きな木は高さ三十五m、径一mに達し、写真のように四方に太い枝を張りまわります。樹皮は淡い灰褐色で、まだらにはがれ、大ぶりの模様ができます。葉身は広卵形で浅く三または五裂し、掌状となります。花期は五月。花は雌雄別々に球状の花序につき、雌花序は十数cmの枝に普通二個つきます。果実は小さい果実（そう果）が多数集まった集合果で、径3cm位の球形、褐色の長毛が密生しています。集合果は一〜四個つきますが、牛久市井ノ岡町公民館構内にある大木は一個だけです。スズカケノキの名は集合果の形が修験者の着る「鈴懸衣」の房に似ているところからついたといわれています。山伏の装束の胸のあたりについているあのポンポン、といえはわかりやすいでしょうが。

（假屋英子）



モジバスズカケノキの樹形  
08.04.30 渡辺

## 6月の里山カレンダー

活動日は天候等都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
	1 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	2 森の畑 9:30畑	3	4 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	5 Eコップ作戦 9:00NC	6 チーム 街路樹20(受) 8:30 市役所玄関 (つくばの街路見学)
7 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関	8 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	9 森の畑 9:30畑	10	11 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	12	13 里山自然観察隊 9:00森P チーム 街路樹20(受) 13:00NCデジカメ講座 (会報等原稿×切)
14 雑木林応援隊 9:00ムジナ	15 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	16 森の畑 9:30畑	17	18 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	19 南部の自然を守る 会(生き物調査) 9:00成井公会堂	20 親子農業体験講座 9:00畑 チーム 街路樹20(受) 13:00NCデジカメ講座
21 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC Eコップ 13:00NC	22 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	23 森の畑 9:30畑	24 会報発送 13:00NC	25 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	26	27 巨木リサーチ2(特) 8:30市役所玄関 チーム 街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会)
28 雑木林応援隊 9:00炭小屋	29 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	30 (休園日)				

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑,  
コジユケイ:観察の森内コジユケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎,  
アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (特):特別事業, (休園日):観察の森休園日, ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

## 編集後記

第五回通常総会が五月十七日に開かれ、会員の皆様から無事承認されました。これで平成二十一年の活動が正式にスタートしたわけです。昨年に引き続き坂・佐藤が編集委員を担当しますのでよろしくお願ひいたします。会員の皆様からご意見をお聞きしながら、内容の一層の充実に取組んでいきたいと思ひます。

早いもので五月も後半に、そして間もなく六月(水無月)に入ります。水無月の由来は、梅雨があけて水が枯れてなくなるといふ意味や、逆に田植えが終わって田んぼに水を張る月、すなわち「水張月」「水月」ともいわれているようです。

二十四節気の一つに芒種(ぼうしゅ)があり六月六日ごろから夏至までの期間をいうようですが、芒(のぎ:イネ科植物の果実をつつむ穎(えい)、イネでいうと籾殻にとげのような突起)を持った植物の種を蒔くころ、とあります。実際には現在の種まきはこれよりも早くなつていて、五月連休の終わるころには一面に田植えが終わった田んぼが広がっています。これからは水が満々と張られ緑の濃いイネの葉が風にたなびく、目に優しい爽やかな田園風景です。

きょうのニュースをみますと、新型インフルエンザの国内感染が三百人を超えました。会員の皆さんは常日頃、里山の自然の恵みを受けながら活躍されていますので抵抗力は充分とは思いますが、今まで以上に体調管理に気をつけて下さい。(佐藤輝雄記)

## 広報委員会からのお知らせ

次号7月号の印刷発送は6月24日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしくおねがいたします。